

## <目標、行動計画>進捗確認シート

提出日：2018年2月22日

### 2021年度に向けた教育研究目標

### 教育研究目標3「キャンパスのグローバル化の推進」

主管部局	国際連携機構	担当部局	国際連携機構
------	--------	------	--------

**【(1)国際連携・交流ネットワークの形成：①世界の大学・教育研究機関、国連、国際機関等との連携、交流強化】**

(タイトル)  
①-(a) 海外の大学・機関との協定、学术交流、学生交流等の推進

(狙い内容)  
世界の大学・教育研究機関との協定を拡大し、戦略的連携交流ネットワークを構築する。

**1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)**

海外協定大学数 210校

**<変更時記入欄>**

海外協定大学数 249校

**<変更理由記入欄：2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>**

2021年度目標の海外協定大学数210校は達成見込みであるため、249校に上方修正する。目標数値としては、引き続き、量的拡大を目指すとともに、質的向上を図る。

**2. 達成度評価**

評価指標	海外協定大学数	評価尺度	A：年度毎の目標値に対する達成度100% B：年度毎の目標値に対する達成度70%～99% C：年度毎の目標値に対する達成度60%～69% D：年度毎の目標値に対する達成度60%未満
------	---------	------	---

**3. 年度毎の目標値**

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
2016年度 自己点検・評価時 点		A 190(実績) /171(目標)	A 207(実績) /179(目標)	223(実績) /197(目標)	210(目標)	223(目標)	236(目標)	249(目標)
2017年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度： A～D	A	A	A				
	見込・ 実績・ 目標 (値又は 状況)	190(実績) /171(目標)	207(実績) /179(目標)	223(実績) /197(目標)				

**【2017年度の進捗状況について】**

- ・海外協定大学数は当初設定した目標数値を大幅に上回る形で着実に増加している。
- ・第三者評価に「(交流を)実施してこそその協定・・・が望まれる」「質的な評価の可能性も検討することが求められます」との指摘がある。上記を踏まえ、2018年度以降は活動内容の質的な向上を含めた行動計画を新たに作成する。

## 2017年度 of 取組み状況の確認

2017年度 of 取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか？ →  はい ・ いいえ

**※上記の目標、行動計画の進捗に関する参照URL【任意】**

[https://www.kwansei.ac.jp/c\\_ciec/c\\_ciec\\_m\\_001372.html](https://www.kwansei.ac.jp/c_ciec/c_ciec_m_001372.html)

<評価専門委員・第三者評価結果> 2017年12月15日公示

<教育研究目標3(1)全体に対する評価委員からのコメント>

- ・ (1)国際連携・交流ネットワークの形成、(2)外国人留学生に対する修学環境整備を下位目標として挙げられていますが、いずれも、スーパーグローバル大学創生支援事業(SGU)における目標と計画の実施に関する内容のものになっています。(A)
  - ・ 国際連携・交流ネットワークの形成に関しては、順調に進展しており、年度計画通りの進捗状況であるといえます。海外協定大学数210校という2021年度までの数値目標はクリアできるものと思われます。課題は、これらのネットワークを通じて、どのような交流や活動が展開され、「世界市民の育成」という教育目標の実現にどのように寄与しているかを検証することです。さすがは関学と言え交流の質の高さを期待したいと思います。(A)
  - ・ 大学のグローバル化は、留学生の受け入れや送り出しといった国際交流にとどまらず、教育システム全体の国際化を実現することにあります。教育内容が国際基準をクリアしているか、国際的通用性のある研究活動が展開されているか、教員の国際化は進んでいるのかなど、目配りが必要な事柄は多岐に亘ります。国際連携機構の業務は、今後、益々重要になると思われます。関学をコスモポリタン大学に創成するという気概を持って業務に当たってほしいと思います。(A)
- ・ 目標とする協定数を上方修正されたこと、プログラムの実施を行動計画に取りこまれたことは評価できます。ただ実効あらせようとすれば、維持できる協定の数には、自ずと限度があることを認識され、将来的には、協定数以外の指標を取り入れて行かれることを期待します。(B)
  - ・ 協定校数が順調に拡大している中で、新たに行動計画①(交換留学及び留学プログラム実施協定校数)を設定した点は評価できます。但し、評価尺度のもとになる年度毎の目標値の根拠を提示していただければと思います。(C)
  - ・ 連携の数が増えていることについては、評価できると思います。問題はその中身と実効性だと思いますので、定性的な目標についても検討いただければと思います。(D)
  - ・ これまでのマスコミ報道への対応等を考えると、交換留学及び留学プログラム実施協定校数については、交換留学と留学プログラム実施を別々の指標として目標値を設定することが期待されます。(E)
  - ・ 海外協定大学数が着実に増加している点が、評価できます。今後の進展に期待が高まります。(H)
  - ・ 海外協定大学数が目標を大幅に上回り増加していることは大変評価されます。
  - ・ 2017年度進捗状況の記述欄にあるとおり、今後、質的な向上に資する計画の策定が期待されます。(I)

【(1)国際連携・交流ネットワークの形成:①世界の大学・教育研究機関、国連、国際機関等との連携、交流強化】

(タイトル)

①-(b) 国際機関、国際NGO等との連携強化

(狙い内容)

国際社会、国際協力への関心を高め、知識・経験を習得するとともに、より多くの情報を得るため、国連および国際機関・国際NPO/NGO法人、海外教育機関との連携を強化する。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

国連ボランティア計画、JICA、ICRCとの連携を維持するとともに、海外教育機関との提携数を確保する。

2. 達成度評価

評価指標	提携機関数	評価尺度
		A : 最終目標値に対する達成度100% B : 最終目標値に対する達成度70%～99% C : 最終目標値に対する達成度60%～69% D : 最終目標値に対する達成度60%未満

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
2016年度 自己点検・評価時 点		A 17	A 21	17	17	17	17	17
2017年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度: A～D	A	A	実績	A			
	見込・ 実績・ 目標 (値又は 状況)	17	21		21			

【2017年度の進捗状況について】

順調に進捗している。

連携先の所在地の安全性を検証し、モニタリングにより現地での活動内容、支援体制などを精査している。提携先との信頼関係を強化するとともに、新規開拓も行っている。それらに加え、提携先の治安などの状況により、派遣を見送るなどの対応もおこなっている。また、学生派遣中に問題が発生した場合は、提携先と連携をし、確実な対応をおこなっている。

2017年度の取組み状況の確認

2017年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか？

→ はい・いいえ

※上記の目標、行動計画の進捗に関する参照URL【任意】

[https://www.kwansei.ac.jp/c\\_ciec/c\\_ciec\\_005757.html](https://www.kwansei.ac.jp/c_ciec/c_ciec_005757.html)

<評価専門委員・第三者評価結果> 2017年12月15日公示

- ・ 国際機関等の数や参加可能な事業数は増えようもなく、しかも参加者を選定するのは向こうなので、こうした計画、取組みになることは理解できずし、しっかり実施されていることは評価できます。(B)
- ・ 既に2021年度の目標(17機関との提携)を実現していることは評価できます。今後は次のステップとして、提携機関との活動に注目した行動計画の作成やモニタリング(参加している学生数、行っているプログラムの数など)が求められます。(C)
- ・ 連携の数が増えていることについては、評価できると思います。問題は中身と実効性だと思いますので、定性的な目標についても検討いただければと思います。(D)
- ・ 提携機関数の数値目標の見直し(引き上げ)ないし、総合大学である本学にとり、提携先機関の専門分野別・所属別の数値目標の追加設定が今後、期待されます。(E)
- ・ 今後も継続的な発展に期待が高まります。(H)

主管部局	国際連携機構	担当部局	国際連携機構
			学生活動支援機構
			財務部

【(1)国際連携・交流ネットワークの形成：②留学生数の拡大と受入プログラム、日本語教育の強化・拡充】

(タイトル)

②-(a) 国際教育の全学的施策の立案と実施

(狙い内容)

異文化を理解し、多文化との共生が可能な国際的に通用する人物(世界市民)を多数育成するために、海外大学および国際機関、国際協力機関等との協定に基づく学生派遣プログラム、学生受入プログラムを拡充し、体系的に整備する。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

海外大学等との協定に基づく派遣学生数 2300人(内訳 大学間協定1615人、部局間協定685人)  
 受入留学生数 1350人(内訳 正規留学生650人、交換学生395人、短期留学生199人、部局間他106人)

2. 達成度評価

評価指標	海外大学等との協定に基づく派遣学生数 受入留学生数	評価尺度	A : 年度毎の目標値に対する達成度100% B : 年度毎の目標値に対する達成度70%—99% C : 年度毎の目標値に対する達成度60%—69%
------	------------------------------	------	--

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
2016年度 自己点検・評価時 点		A 派遣 1066(実績)/1060 (目標) 受入 1052(実績)/930(目 標)	A 派遣 1361(実績)/1110 (目標) 受入 1101(実績)/1020 (目標)	派遣 1210(目標) 受入 1080(目標)	派遣 1320(目標) 受入 1140(目標)	派遣 1560(目標) 受入 1200(目標)	派遣 2000(目標) 受入 1275(目標)	派遣 2300(目標) 受入 1350(目標)
	2017年度 進捗状況 & 今後の 目標値	A 派遣 1066(実績)/1060 (目標) 受入 1052(実績)/930(目 標)	A 派遣 1381(実績)/1110 (目標) 受入 1101(実績)/1020 (目標)	見込み 派遣 1518(見込)/1210 (目標) 受入 1189(実績)/1080 (目標)				

【2017年度の進捗状況について】

・本学の留学プログラムで最も派遣者数の多い外国語研修(短期)では、3プログラムを開発した夏季(8月～9月)実施分において、昨年度の206名の派遣に対し、280名と大きく伸長した。その他中期留学等の他プログラムにおいても派遣数の増加が見込めるため、2017年度派遣者総数は、目標値の1210名に対し、約1500名となる予定である。  
 ・派遣プログラムの質を担保するため、①長期プログラム(交換留学・ダブルディグリー留学)派遣者増加、②交換留学に準じる質の高いプログラム開発の検討、③留学の事前・事後教育、等に取り組んでいる。  
 ・受入留学生数については入学者数が多かった学年が順次卒業したため、正規学生が大幅減少している。しかし、外国人留学生入試の2次試験を実施したり、海外からの推薦入学制度を増やしたりして、入学者数の回復および増加に取り組んでいる。一方で短期間の受入留学生の拡大に向け、海外協定大学への提供を目的とした短期プログラムの開発を行った。2017年度は①日本語学習プログラム(5week)を新規開講、②Trinity大学のFaculty-Led Programを新規受入を行った。これにより、正規学生の減少分の補填に努めている。

2017年度の取組み状況の確認

2017年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか？	→	はい・いいえ
------------------------------	---	--------

※上記の目標、行動計画の進捗に関する参照URL【任意】

<a href="https://www.kwansei.ac.jp/c_ciec/c_ciec_005914.html">https://www.kwansei.ac.jp/c_ciec/c_ciec_005914.html</a>
---

**<評価専門委員・第三者評価結果> 2017年12月15日公示**

- ・ 行動計画①で、新に派遣する際の質の担保と成果の可視化の仕組みの整備に言及されたことは評価できます。(B)
- ・ 海外への派遣学生数、受け入れ留学生数の双方が順調に伸びています。今後は更に、長期、短期別など、プログラム別の目標設定やモニタリングが行われることが期待されます。(C)
- ・ 海外の派遣学生が大幅に増加見込みとのことで、素晴らしいことだと思います。留学生を安定的に確保することは難しいとは思いますが、連携大学も増えていることですし、受け入れ学生も増やしていくことも是非お願いします。(D)
- ・ 派遣学生数の目標の再設定(最終目標値の前倒し設定)、地域ごとの協定大学数と派遣学生数・留学生数についての新規目標設定等の検討が今後、期待されます。(E)
- ・ 留学生については、派遣、受入ともに目標値をクリアしており、大変評価できます。(G)
- ・ 順調に進捗しており評価できます。(H)
- ・ 長期留学の派遣者の伸び悩み等の難しい課題があると思いますが、今後も派遣/受入留学生数の目標数を達成するため、更なる仕組み、施策の開発や学内の促進が期待されます。(I)



【(1)国際連携・交流ネットワークの形成:②留学生数の拡大と受入プログラム、日本語教育の強化・拡充】

(タイトル)

②-(b) 日本語教育の全学的施策の立案と実施

(狙い内容)

外国人留学生の多様な日本語教育のニーズに応えるプログラムを提供し、多文化が共生する国際性豊かなキャンパスを実現する。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

正規、交換、短期の全留学生を対象とした日本語教育科目の全プログラムにおいて、専任教員が開発、進捗管理、実施状況のレビュー、改善までを責任を持って行う体制を強化する。

2. 達成度評価

評価指標	①受講生の満足度 ②短期プログラムの参加人数	評価尺度	A : 満足度が十分高い(満足+まあまあと思うが80%以上) /SGUの数値目標に対する達成度80-100%
	<変更時記入欄>		B : 満足度が高い(満足+まあまあと思うが75%-79%) /SGUの数値目標に対する達成度70-79%
			C : 満足度がやや低い(満足+まあまあと思うが65%-69%) /SGUの数値目標に対する達成度60-69%
			D : 満足度が低い(満足+まあまあと思うが65%未満) /SGUの数値目標に対する達成度60%未満
			<変更時記入欄>
			A :
			B :
			C : 満足度がやや低い(満足+まあまあと思う)
			D : 満足度が低い(満足+まあまあと思うが70%未満) /SGUの数値目標に対する達成度60%未満

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
2016年度 自己点検・評価時点		A ①調査方法検討 ②96人(実績)	A ①春84.4%、秋86.5% ②106	①満足度が十分高い ②135	①満足度が十分高い ②135	①満足度が十分高い ②135	①満足度が十分高い ②180	①満足度が十分高い ②180
	2017年度 進捗状況 & 今後の 目標値	A	A	実績	A	A	A	A
	見込・実績・目標 (値又は 状況)	①調査方法検討 ②96人(実績)	①春84.4%、秋86.5% ②106(実績)	①春88.0%、秋80.6% ②133(実績)	②150	②150	②150	②150

【2017年度の進捗状況について】

- ①満足度の高い教育を提供できるよう、月1回開催される日本語教育センター講師会議において、教育方法や環境整備に向けた検討及び情報共有を行う。
- ②短期プログラムの参加者数増加に向け、2017年度より春季5週間プログラムを開講し、海外協定大学に提供する。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

・SGU実施計画において受入学生種類別の受入目標数に変更され、その目標数にあわせて目標値の変更を行う。

2017年度の取組み状況の確認

2017年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか? → はい・いいえ

※上記の目標、行動計画の進捗に関する参照URL【任意】

[https://www.kwansei.ac.jp/c\\_ciec/c\\_ciec\\_008201.html](https://www.kwansei.ac.jp/c_ciec/c_ciec_008201.html)

**<評価専門委員・第三者評価結果> 2017年12月15日公示**

- ・ 最初から評価がAの計画策定に意味があるとは思えません。例えば、学外での日常生活に不自由しない水準に1年で持って行くとか、新たな目標を設定されては如何でしょうか。検討が望まれます。(B)
- ・ 日本語教育プログラムの受講生の満足度、参加人数が目標を達成しています。また日本語教育プログラムを海外協定大学に提供するといった活動も評価できます。(C)
- ・ 短期プログラムの人数も増加しており、満足度も高いことから、引き続き上を目指して頑張ってくださいと思います。(D)
- ・ 留学生向け授業におけるアクティブラーニングやハンズオンラーニングの目標設定についての検討が期待されます。(E)
- ・ 「2017年度の取組み状況の確認」の欄で「2021年度を目指す姿を実現する上で、…行動計画は必要十分であるか？」に対し、「いいえ」と回答されていますが、新たな行動計画の追加は必要ないのでしょうか。(F)
- ・ 順調に進捗しており評価できます。(H)
- ・ 満足度が高い取組みが継続できており、今後も高い満足度を維持していくことを期待しています。(I)

【(1)国際連携・交流ネットワークの形成:③国際協力プログラム参加者の積極的拡大】

(タイトル)

③-(a) 国際協力に関する実践的なプログラムの開発、提供

(狙い内容)

国際社会、国際協力への関心を高め、国際社会における諸課題を理解し、解決に貢献できる人材を育成するために、実践的なプログラムを開発、提供する。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

国際協力関係プログラム参加者数 50人

<変更時記入欄>

国際協力関係プログラム参加者数 38人

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

文部科学省補助事業「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」において、本取組での参加学生数を目標値として設定し、推進してきたが、補助期間の終了とともに、プログラムを運営する教員体制が縮小されたため、次年度以降の目標値(参加者数)を見直した(第34回「グローバル化推進本部会議」(2016. 7. 15開催)了承)。

2. 達成度評価

評価指標	国際協力関係プログラム参加者数	評価尺度	A : 最終目標値に対する達成度100% B : 最終目標値に対する達成度70%～99% C : 最終目標値に対する達成度60%～69% D : 最終目標値に対する達成度60%未満
------	-----------------	------	---

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
2016年度 自己点検・評価時点		A 39	A 52	38	38	38	38	38
2017年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度: A～D	A	A	実績 B				
	見込・ 実績・ 目標 (値又は 状況)	39	52		37			

【2017年度の進捗状況について】

順調に進捗している。文部科学省補助事業「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」において、本取組での参加学生数を目標値として設定し、推進してきたが、補助期間の終了とともに、プログラムを運営する教員体制が縮小されたため、次年度以降の目標値(参加者数)を見直す(第34回「グローバル化推進本部会議」(2016. 7. 15開催)了承)。  
学生のニーズに応じて、当初の目標値であるプログラム参加者数50人をめざし努力する。

2017年度の取組み状況の確認

2017年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか? → はい・いいえ

※上記の目標、行動計画の進捗に関する参照URL【任意】

[https://www.kwansei.ac.jp/c\\_ciec/c\\_ciec\\_005914.html](https://www.kwansei.ac.jp/c_ciec/c_ciec_005914.html)

<評価専門委員・第三者評価結果> 2017年12月15日公示

- ・ 目標の下方修正は、現実的な判断だと思います。(B)
- ・ 昨年度も指摘しましたが、文部科学省補助事業の終了に伴い、体制が縮小されて参加する学生数も減らさざるを得ないという点は残念であり、今後の進め方についての説明が求められます。(C)
- ・ 補助期間終了とともに事業が縮小したことは残念です。今後、持続可能な事業にさせていただくことを期待します。(D)
- ・ 参加者数以外の評価指標があれば、より良い評価ができると思われます。(H)



主管部局	国際連携機構	担当部局	国際連携機構 学生活動支援機構 国際教育寮WG
------	--------	------	-------------------------------

【(2)外国人留学生に対する修学環境整備:①混住型国際教育寮の拡充、②留学生パートナー制度の整備】

(タイトル)  
外国人留学生の生活支援の充実

(狙い内容)  
外国人留学生の経済支援、生活支援を行うことにより修学環境を整え、多文化が共生する国際性豊かなキャンパスを実現する。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

混住型国際教育寮に入居する留学生数 36人  
サポートする学生の登録者数 700人

2. 達成度評価

評価指標	①混住型国際教育寮に入居する留学生数 ②サポートする学生の登録者数	評価尺度	A: 指標①、②のそれぞれの最終目標値に対する各達成度の平均値80%–100% B: 指標①、②のそれぞれの最終目標値に対する各達成度の平均値70%–79% C: 指標①、②のそれぞれの最終目標値に対する各達成度の平均値60%–69% D: 指標①、②のそれぞれの最終目標値に対する各達成度の平均値60%未満
------	--------------------------------------	------	---

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
2016年度 自己点検・評価時 点		①12 ②540	①24 ②550	①36 ②600	①36 ②650	①36 ②650	①36 ②650	①36 ②650
2017年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度: A~D	A	A	実績 C				
	見込・ 実績・ 目標 (値又は 状況)	①12 ②453	①13 ②610	①13(実績) ②516(実績)				

【2017年度の進捗状況について】

・2016年9月よりレジデンスVを開寮し、交換学生、正規留学生の居住を開始した。国際教育寮WGの答申を受けて2017年度中にはRA制度を整備し、2018年度からRAを活用し、混住化が飛躍的に推進される予定である。なお、上記の国際教育寮WGでの検討により、2020年度までは、原則として、新規寮の開設は行わず、現在保有する寮の運用改善やホームステイプログラムの強化等によって留学生向け宿舎を確保する。また、2021年度以降の国際教育寮政策については、2017年度中に策定される長期戦略に基づき計画する。  
・海外協定校からの交換学生や短期日本語学習プログラム参加者の日本語学習をサポートする日本語パートナーや学部正規留学生の1年生を対象に適応支援を主軸に活動するインターナショナルパートナーや交換学生の来日時の支援および外国人留学生と日本人学生の課外フュージョンを推進する国際交流の推進を主軸に活動するGS Networkなどの外国人留学生を様々な側面からサポートする仕組みがある。GS Networkによる中芝Lunchは外国人留学生と日本人学生が中央芝生で昼食を食べながら交流するイベントであり、月1~2回開催され、国際性豊かなキャンパスづくりに貢献している。

2017年度の取組み状況の確認

2017年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか? → はい・いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>  
①理由: 国際教育寮WGからの構想書によって計画が変更されたため。  
②今後必要な取組み: 2018年度からRA制度が導入されることにより促進される国際化に向けて準備を行う。

※上記の目標、行動計画の進捗に関する参照URL【任意】

[https://www.kwansei.ac.jp/c\\_ciec/c\\_ciec\\_m\\_000626.html](https://www.kwansei.ac.jp/c_ciec/c_ciec_m_000626.html)

**<評価専門委員・第三者評価結果> 2017年12月15日公示**

- ・ 留学生の対する修学環境整備では、混住型国際教育寮の充実が今後どのように実現されるかという点です。留学生のニーズのみならず、支援する日本人学生のニーズにも十分配慮し、国際交流の学内拠点をして機能することを期待します。(A)
- ・ 既存の寮の混住化を推進されるのであれば、達成度評価の評価指標①を変更されることが望まれます。(B)
- ・ ハード面の整備は中長期の視点で検討を進めていただいていると思います。ソフト面については、留学生をサポートするパートナー制度に工夫が凝らされており、登録された600名の様々な活動に期待したいと思います。(C)
- ・ 留学生受け入れ拡大の項目にも密接に関連する項目です。環境整備・留学生受け入れを一体的に、大学全体として取り組んでいただきたいと思います。(D)
- ・ 留学生の満足度調査に係る指標の設定が期待されます。(E)
- ・ アシスト目標⑧(仮)寄宿舎に関する事業の目標とも関係してくる内容ですので、全学的な議論が早急に進められることが期待されます。(F)
- ・ 国際教育寮の問題はハード面での環境整備が関わるため、予算等の確保を含めて難しい問題だと思いますが、引き続き推進されることを期待します。
- ・ 行動計画②のパートナー制度の登録者が昨年度に比べて減少する見込みであることは少し気がかりです。(I)